

高木 清隆 議員

中心市街地活性化基本計画 策定に向けて

Q 問 計画策定前に、中心市街地の衰退要因として、現状のどこに問題があるのか、その原因は何か、その上で現状の何を変えるべきかを、どう分析しているのか。

A 答 周辺の定住人口や商店街通行量の減少、大型商業施設の撤退が大きな要因。人が住む場、人が働く場、商業の場等の都市機能を取り戻す必要があると考える。

Q 問 計画策定にあたり、具体的に実践する仕組みとして、どこで・なぜ・誰が・いつ・どのようにを示す戦略の策定が必要ではないか。

A 答 新たな基本計画では実効性のある事業を計画。これに基づく事業を確実に実行すべく、総合的な視点で戦略を検討する必要がある。

Q 問 都市計画マスタープランとの整合性を図るべきと考えるがどうか。

A 答 策定中の都市計画マスタープランでは、袋井駅周辺は、商業系地域として都市拠点の中心核と位置づけ、土地利用を充実させる方針で、この基本計画との整合性を図るよう努めてきた。



JR袋井駅舎の完成予想図(平成22年度供用開始予定)

佐藤 省二 議員

発達障害児を早期発見 するための体制は

Q 問 言葉や体の成長、精神の発達遅れのある幼児を早期発見するための体制はどうか。

A 答 1歳6カ月から3歳までの半年ごとの健診等に加え、1歳6カ月児と3歳児健診では、小児科医の診察とともに臨床発達心理士の相談を導入し、発達障害等の早期発見に努めている。

対象児の親の会についての考えは

Q 問 近隣のまちでは親同士がコミュニケーションを取り合い安心できる集まりがある。本市にどうか。

A 答 基本的には本市に一つある親の会に加わっていただくための支援をしたい。また、会の新設も支援したい。

早期療育施設の建設は

Q 問 常時継続的に決まった場所で療育することが不可欠。専門職員の配置を求める。

A 答 早期療育施設の整備は、総合計画、障害者計画に位置づけ、検討委員会を立ち上げて、年度内に早期療育システムの構築に必要な施設整備への提言をいただく中で、方向性を決定したい。



臨床発達心理士による相談も行う「カンガルーのぼっけ」